

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査の結果について

廿日市市立阿品台東小学校長 柳川 大蔵

初秋の候、皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素より本校教育に対し、ご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

さて、4月に全国の6年生を対象に行われた「全国学力・学習状況調査」の結果がまとまりましたのでお知らせいたします。今回の結果から把握した各児童の学習や生活における実態をもとに、今後の指導内容や指導方法の改善・充実を図ってまいります。なお、これらの内容については、学校ホームページにも掲載します。

1 教科に関する調査

国語

本校平均正答率 69% 広島県平均正答率 69% 全国平均正答率 66.8%

【重点課題】

- ①集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することに課題がある。
- ②文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題がある。

【重点課題に対応した指導内容及び方法】

- ①に対して
 - ・話したり聞いたりする場面では、全体の話の流れをつかみ、内容ごとにまとめたり、情報を結び付けたりしながら伝え合う内容を検討させるようにする。
- ②に対して
 - ・各学年の教材を扱う際に、資料の関係性の理解や必要な情報の取捨選択の仕方、語句や情報を丸や四角で囲んだり線でつないだりするなどの情報の整理の仕方を理解させる。

算数

本校平均正答率 53% 広島県平均正答率 59% 全国平均正答率 58.0%

【重点課題】

- ①数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数のいくつ分として捉えることに課題がある。
- ②「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことに課題がある。

【重点課題に対応した指導内容及び方法】

- ①に対して
 - ・単位分数の意味を数直線図やイラスト等を含め具体物を使って理解させる。
- ②に対して
 - ・割合には様々な表現があることを伝えるとともに、○%増量や◇割引等の増減の割合を図を用いてイメージできるようにする。
 - ・式や言葉を使って説明したり、文章に書き表したりする活動を大切にし、指導する。

【重点課題】

- ①設問や前提とする科学的条件を正確に読み取り、必要な情報と不要な情報を選別することに課題がある。
- ②実験で得た結果を問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することに課題がある。

【重点課題に対応した指導内容及び方法】

①に対して

- ・実験条件を図や表で整理させたり、問題文の状況を図式化させたりする活動を行うようにする。
- ・実験の考察をする際、適切な資料を活用できるよう、資料を関連付けて説明する機会を設けていく。
- ・個別単元の知識習得にとどまらず、関連する単元を通して、概念的スキルの育成を意識して指導する。

②に対して

- ・課題を解決していく中で、次への疑問や新たな課題を自ら見出すような学習を取り入れる。
- ・「なぜ？」と問い返す習慣をつけ、条件を変えて考えたり、他者の視点に触れたりする活動を意識して取り入れる。

2 生活習慣や学習指導等に関する質問調査（主なもののうち肯定的解答）

本校結果と全国結果を比較した場合、次の事項は、特に本校児童のプラス面（○）、マイナス面（△）といえます。

○先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか。（本校 93.2% 全国 92.2%）

○5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

【ほぼ毎日】（本校 75% 全国 46.7%）

○学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。（電子書籍も含む。漫画や雑誌は除く。）

【1時間以上】（本校 20.5% 全国 15.2%）

△自分には、よいところがありますか。

（本校 70.4% 全国 86.9%）

△5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

（本校 72.7% 全国 80.3%）

△授業や学校生活では、友だちや周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。

（本校 84.1% 全国 91.9%）

△健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか。

（本校 70.4% 全国 80.0%）

【今後の取組】

○児童の目立たない長所にも気づき、細やかにフィードバックをするとともに、児童の相互評価の機会を意図的に設ける。

○自分に必要な学力を補充する時間や機会を保障し、主体的に学習に臨めるような場を設ける。

○児童にとって必要感のある話題で友だちと対話をする場を設け、課題解決能力を育てる。

○生活習慣の指導を、その場限りではなく継続的にしていけるような計画を立て、取組を行う。

学校では、これらの結果を受け、よりよい学校教育に向け、全教職員で共通理解を計りながら取組を進めてまいります。改善に向け、学校だけでなく、家庭・地域がそれぞれの適切な役割を果たしつつ、連携・協働した取組が行われることが重要です。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。